

二四八三番

しきたへの 衣手ころもて離れて 玉藻たまもなす なびきか寝ぬ
らむ 我わを待まちかてに

二四八四番

君来きみこずは 形見かたみにせむと 我わが二人ふたり 植うゑし松まつの
木き 君きみを待まち出いでむ

二四八五番

袖振そでからば 見みつべき限かぎり 我われはあれど その松まつが
枝えに 隠かくらひにけり

二四八六番

千沼ちぬの海うみの 浜辺はまへの小松こまつ 根深ねふかめて 我あれこ恋わたひ渡る
人ひとの児故こゆゑに